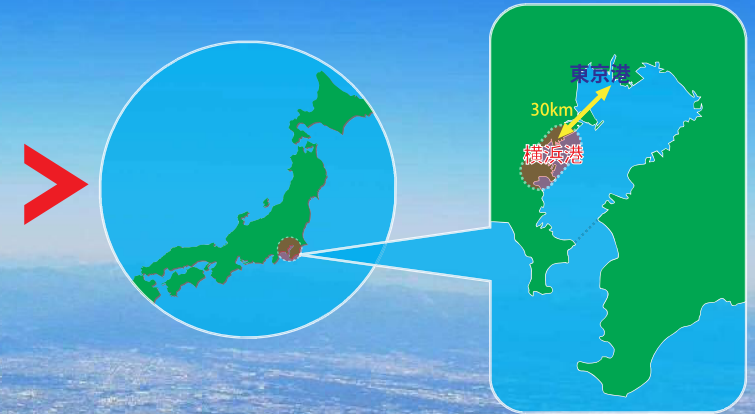


PORT OF YOKOHAMA



- 横浜港は、コンテナ取扱量国内第2位の港湾で、コンテナはもとより、完成自動車、石油類、穀物などあらゆる貨物を取り扱う「総合物流港湾」です。
- 2010年8月に、国から「国際コンテナ戦略港湾※1」に選定され、我が国の国際海上物流の中核を担う港に位置付けられています。
- 当社は、2012年12月に国から「特例港湾運営会社※2」の指定を受け、横浜港内のすべてのコンテナ埠頭を一元的に管理運営しています。

※1「国際コンテナ戦略港湾」施策とは
国が重点投資する港を選定（「選択と集中」）し、「民の視点」による港湾運営によって、日本に国際競争力のあるハブ（拠点）港をつくることを目指す施策のことです。

※2「特例港湾運営会社」とは
港湾運営会社は、国や港湾管理者（地方自治体）から行政財産（岸壁や土地等）を借り受けてコンテナ埠頭を一元的に運営し、「民の視点」による効率的な港湾運営を担います。この港湾運営会社は国際戦略港湾ごとに1社指定されることになっていますが、特例措置として、期間を区切って港別に港湾運営会社を指定する制度が設けられました。この指定を受けた会社を特例港湾運営会社といいます。

当社の主な事業内容

特例港湾運営会社である当社は、横浜港の運営主体として、コンテナターミナルなどの運営を行う「埠頭運営事業」を中心に、横浜港の物流関連施設の管理運営を担っています。

加えて、「エコポート」の推進など、環境にやさしい港づくりにも積極的に取り組んでいます。

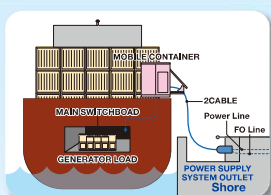
ターミナルの整備・維持管理、長期的な専用貸付



国際貿易ターミナルの整備・維持管理、長期的な専用貸付

横浜市の公共物流施設の維持・管理運営

環境にやさしいエコポートの推進



環境負荷の軽減、再生可能エネルギーの活用

横浜港の利用促進



コンテナ貨物の集荷

船社の誘致活動

施設運営における当社の強み

利用者のニーズに合わせたターミナルの設計・建設



健全な会社経営による計画的な設備投資



施設利用者との長期的なパートナーシップ



使いやすい港の整備による長期的かつ良好な関係の構築

施設維持管理における当社の技術

予防保全によるライフサイクルコストの低減



適切な維持管理による施設の長寿命化



迅速かつ、荷役に支障をきたさない施工



Promotion of Eco-Port

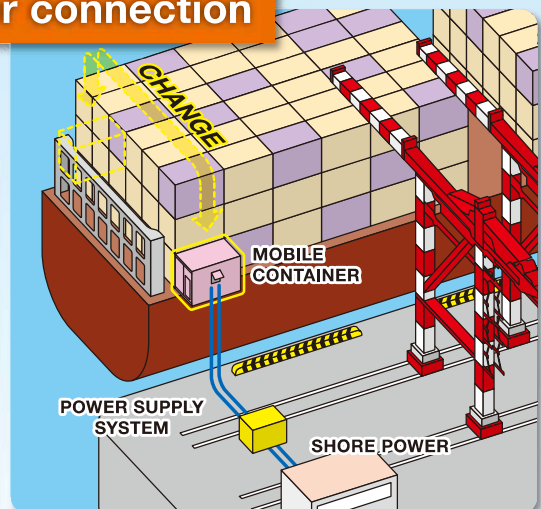
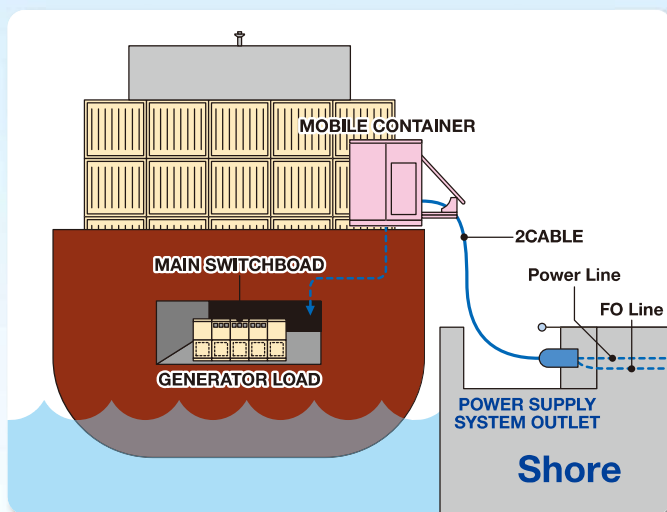
環境負荷の軽減・再生可能エネルギーの活用によるエコポートの実現

Solar Power



太陽光発電設備や船舶への電源供給設備を
当社ターミナルに導入予定

Shore-to-ship power connection



横浜港のインフラ施設

集積する物流施設



- Y-CC ((株) 横浜国際流通センター)をはじめ、公共・民間の数多くの物流施設が集積
- 完成自動車や建設機械など多様な取扱品目

Yokohama Port Cargo Center(Y-CC)



- 保管、流通加工、配送まで効率的に行うことが可能な総合物流施設

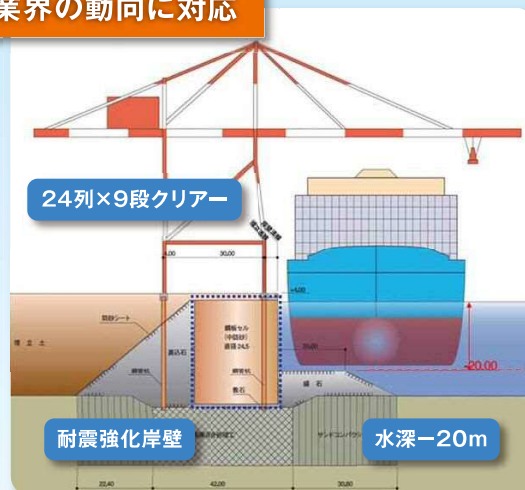
横浜港のインフラ施設

先進的なターミナル



南本牧ふ頭 最終完成イメージ

船舶の大型化など海運業界の動向に対応



大型コンテナ船18,000TEUクラスに対応

- 日本初の-20m水深を有するターミナル
- 耐震強化岸壁として整備
- ガントリークレーン24列×9段クリアー 4基
- 総面積20万m²

横浜港のインフラ施設

安全・安心な港づくり

耐震強化岸壁整備



ガントリークレーン免震装置



- 耐震強化岸壁の整備
- ガントリークレーンに免震装置を設置（免震ゴム+ダンパーシリンダー）

放射線検知



- 据置型放射線測定器の設置

横浜港のインフラ施設

高度な立体道路技術

横浜ベイブリッジ



- 上部は首都高速道路として機能し、埠頭からダイレクトに背後圏へアクセス
- 下部は国道357号による埠頭間の近距離アクセス高度な技術による上下立体交通機能を有した橋梁

ランプウェイ



ターミナル後背地の効率的活用

- 限られた用地に対応したループ型ランプウェイ
- ランプウェイ下部の用地は完成自動車・中古車の蔵置エリアとして活用

●海と陸の輸送を結ぶコンテナターミナル


コンテナ船が着いた場所はコンテナターミナルと呼ばれ、海と陸の輸送を結び接点となる場所です。コンテナの積みおろしや保管、貨物の検査なども行われています。船の出港の時間に間に合うように、そしてお店などに早く確実に貨物を届けるために、高い技術を持った人たちが様々な仕事をしています。その作業スピード、信頼性は世界のトップクラスといわれています。

■ターミナルオフィスセンター(管理棟)
船の入出港、ターミナル内の作業などを集中的にコントロールしています。


●コントロールセンター
ここから作業の指示を出します。

●シブプランナー
船の状態や形、コンテナの数や重さ、どの港でおろすのかなどを考え、積み付けプランを行います。


●ヤードプランナー
船からおろしたコンテナ、輸出するコンテナをターミナル内のどの位置に置いておくのが効率的なのかを考えます。




●ゲート・チェッカー
コンテナターミナルの入り口です。コンテナがこわれていないかどうかを調べたり、船名や目的地、コンテナナンバーなどを確認します。



●コンテナ・メンテナンス
コンテナを使用するお客さんに良い状態で貸し出せるように毎日、清掃や点検・修理を行っています。



●トップリフター
空のコンテナを積みおろしする荷役機械(にやくきかい)。フォークリフトと違い、上からコンテナを持ち上げます。





●ガントリークレーン
南本牧ふ頭(みなもとまきふ頭)のクレーンは、メガガントリークレーンといって、日本で最大級の大きさです。オペレーターは約50メートルの高い場所からコンテナの積みおろしの操作をします。




●ラッシャー (船内)
船に積んだコンテナが崩れないように固定したり、荷おろしの時にもコンテナの固定を外したりします。




●ハウストレーラー
ガントリークレーンからおろされたコンテナをターミナル内の決められた位置に運びます。輸出の時は、逆にガントリークレーンの下までコンテナを運びます。



●トランスファークレーン
ゴム製のタイヤが付いたクレーンでターミナル内のコンテナを積みおろしする時に使います。



●リーファーコンテナ・メンテナンス
輸送だけでなく、ターミナル内でもリーファーコンテナ(冷凍・冷蔵)の温度管理や点検などが行われています。肉や果物など最適な温度で保管することも大切な仕事なのです。



コンテナは、雨や風に強いから倉庫はいりません。またクレーンなどの点検・修理も毎日行っています。安全で確実な作業を行うためには、こうした努力がとても大切なのです。